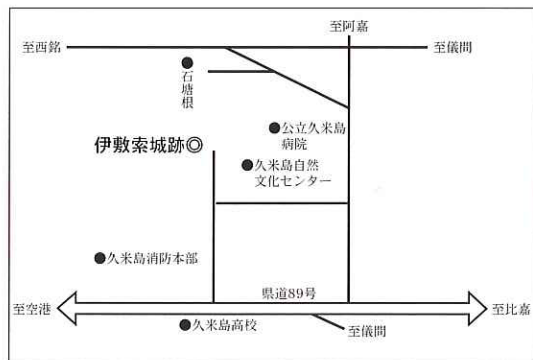


指定名称 ちなはじょうあと 伊敷索城跡 (県指定史跡)
所在地 久米島町字嘉手苺西新田1071
指定年月日 昭和36年6月15日
所有者 久米島町



伊敷索城跡

伊敷索城跡は、白瀬川下流の断崖上にあつて、珊瑚石灰岩の野面積みの石垣で囲われた三山時代(南山・中山・北山)頃に築かれたといわれるグスクである。

平地部分に接する正面の石垣の高さは平均で約2m、城壁は、北東から南西へ直線的に積まれているのが特徴。城は大きく一の郭と二の郭に仕切られ、高さ約1mの石垣で仕切られている。一の郭は城内東側にあり、グスク全体の四分の一の面積を占めている西

側の二の郭跡に開いている城門は、両側の石積みが雑石の野面積みとなっていることから木造の門であったことが窺える。一の郭跡に城の守り神としてイベ(御嶽の内奥にある神域)が祀られているようであるが、所在は不明である。伊敷索按司は後に子供たちを久米島島内の中城(宇江城)、具志川、登武那覇の各城に配置して、大勢力を誇った。